



2015年度
決算補足資料
2016年5月11日

株式会社UACJ

1. 2015年度通期業績

2. 2016年度通期業績見通し

3. トピックス

2015年度通期業績の結果、2016年度通期業績見通し、トピックスについてご説明します。

1. 2015年度通期業績

まずは通期業績の概要です。

経常利益 120億円（対前期比93億円減）

■ 数量 LNG船用厚板や自動車関連が大きく伸長し、前期比増

■ 経常利益

①対前期比93億円（43.7%）減

- ・ 統合効果をはじめとする着実なコストダウンを実行
- ・ タイ工場の立ち上げコスト、アルミ地金価格の下落に伴う棚卸評価関係の悪化影響等

②前回発表通期見通し比40億円好転（80億円→120億円）

- ・ 営業努力、コスト削減、棚卸評価の好転等

期末配当 3円/株

■ 期末配当は、当初計画通り、3円/株を予定

（中間配当3円/株、年間合計6円/株）

経常利益は120億円であり、対前期比で93億円減少しました。

数量についてはLNG船用厚板や自動車関連が大きく伸長し、前期より増加した一方、経常利益は前期比93億円減、43.7%減となりました。

統合効果をはじめとするコストダウンは着実に実行していますが、タイ工場の立ち上げコストの増加、アルミ地金価格の下落による棚卸評価の悪化影響が大きく、減少となりました。

第3四半期に下方修正を発表しましたが、そこからは40億円ほど増加しています。増加した要因は営業努力やコスト削減、棚卸評価の好転です。

期末配当については、予定通り1株あたり3円としています。

2015年度 通期業績

UACJ

(単位：億円)

	2014年度 (A)	2015年度 (B)	増減 (B) - (A)
連結売上高	5,725	5,757	32
連結営業利益	237	152	△85
棚卸影響前 連結経常利益	142	203	61
連結経常利益	213	120	△93
連結当期純利益	86	51	△35
Adjusted EBITDA	417	523	105

※ 連結当期純利益：親会社株主に帰属する当期純利益
 ※ Adjusted EBITDA：EBITDA - 棚卸評価関係

© 2015 UACJ Corporation. All rights reserved.

4

連結売上高は5,757億円です。数量は増加したものの、地金の下落等もあり、前期比32億と微増にとどまりました。連結営業利益は、前期比85億減の152億円でした。

棚卸影響前の連結経常利益は、203億円と、前期比61億円増でした。

連結経常利益は前期比93億円減の120億円、連結当期純利益は前期比35億円減の51億円でした。

Adjusted EBITDAについては、前期比105億円増の523億円と、統合後初めて500億円を超えました。

セグメント別 売上高・営業利益

UACJ

(単位：億円)

	2014年度 (A)		2015年度 (B)		増減 (B) - (A)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
アルミ圧延品	4,519	233	4,609	181	89	△51
伸銅品	506	10	469	3	△37	△7
加工品・関連事業	1,616	46	1,671	37	54	△8
(調整額)	△916	△52	△991	△70	△74	△18
合計	5,725	237	5,757	152	32	△85

© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

5

3つのセグメントの業績を報告します。

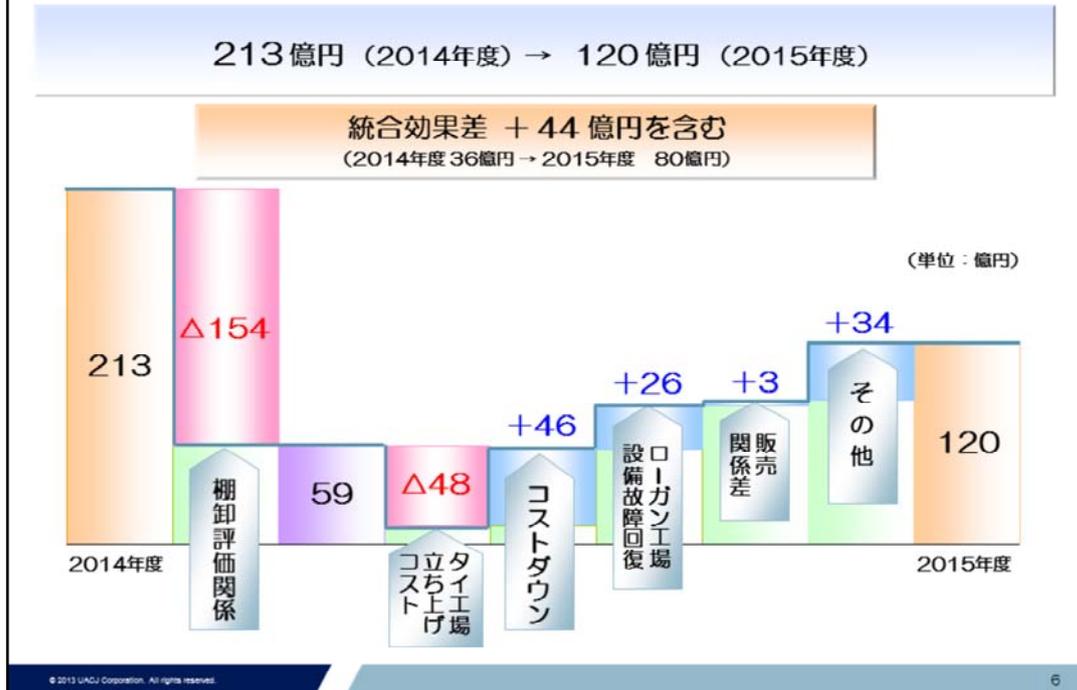
アルミ圧延品は、増収減益でした。

伸銅品は減収減益となりました。夏場以降のメイン製品はエアコン用の銅管ですが、エアコンの在庫が積みあがった影響で下期の売上が減少しました。

加工品・関連事業は減益でした。一部の事業譲受があったため、売上高は増えたものの、メイン製品の売上が下期に落ちたことが要因です。

連結経常損益分析 (2014年度 → 2015年度)

UACJ



ウォーターフォールチャートで連結経常利益を示しています。前期213億から当期120億円へと、93億円減少についての説明です。

棚卸評価関係で154億あり、大きく影響しています。加えて、2015年8月に一貫生産を開始したタイ工場の立ち上げコストにより48億円減となっています。

一方、プラス要因としては、統合効果44億円を含めたコストダウンが46億円です。また2014年度、米国ローガン工場の設備故障によるマイナス影響が発生しましたが、これが回復したため26億円プラス。販売関係も3億円プラスとなりました。そのほかは燃料単価の下落が貢献し、34億円プラスでした。

これらの着地点として120億円という結果になっています。

アルミ板 品種別売上数量

UACJ

(単位千トン)

品 種	2014年度 (A)	2015年度 (B)	増 減 (B) - (A)
缶 材	606	614	8
箔 地	47	46	△1
I T	27	21	△6
自動車	65	80	15
厚 板	48	62	14
その他一般材	161	146	△15
合 計	955	970	15
	国内市場向け 515 海外市場向け 440	国内市場向け 510 海外市場向け 460	△5 20

© 2015 UACJ Corporation. All rights reserved.

7

アルミ圧延、板関連の品種別売上を示しています。

トータル97万トンで、前期から1万5千トン増加しました。

まず、缶材は8千トン増加し、61万4千トンでした。要因としては、コーヒー缶のアルミ化が進んだこと、タイ工場の一貫生産の開始、米国ローガン工場の熱間圧延設備の回復が挙げられます。

箔地は微減でした。

IT関係は、2015年下期からパソコン筐体の売上が落ちた影響で減少し、2万1千トンでした。

自動車関係には、パネル材と熱交換器材の2種類がありますが、いずれも好調であり、前期比1万5千トン増の8万トンでした。

厚板については、LNG船のタンク材が国内・海外ともに増加し、前期比1万4千トン増の6万2千トンとなりました。

その他一般材については、国内の建材が減少したことと、印刷板が国内外で減少した影響があり、前期比1万5千トン減の14万6千トンという結果になりました。

なお、国内・海外の内訳は、国内市場向けが51万トン、海外市場向けが46万トンです。

燃料単価推移

UACJ



© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

8

参考グラフです。

燃料単価が昨年から下落傾向にあり、これがプラスに作用しています。

アルミ地金日経平均・アルミ基準地金

UACJ



© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

9

アルミ地金の日経の市況を示しています。2014年以降は上昇傾向でしたが2015年から下降傾向が続いており、これによって棚卸評価関係が悪化しました。

主要連結経営指標



	2015/3末	2016/3末
自己資本（億円）	1,723	1,650
自己資本比率（％）	25.4	24.9
有利子負債（億円）	2,960	2,890
D/Eレシオ（倍）	1.72	1.75
ROE（％）	5.3	3.0

© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

10

最後に主要連結経営指標です。

自己資本および自己資本比率は若干低下しました。これは、主に円高の進行による為替換算調整によるものです。有利子負債は、コマーシャルペーパー減少によって少し減ったものの、分母も減ったことから、D/Eレシオは若干上がっています。

ROEは利益減少により低い水準にとどまりました。

2. 2016年度通期業績見通し

2016年通期業績見通しについて報告します。

経常利益 200億円 (対前期比80億円増)

■ 数量 前期比増

- ・タイ工場の立ち上げにより缶材が増加
- ・引き続き自動車材が増加

■ 経常利益 80億円 (66.5%) 増

- ・棚卸評価関係好転
- ・統合効果をはじめとするコストダウンの実現
- ・タイ工場の立ち上げコストの減少等

配当年間 6円/株を予定

- 安定配当の観点から、配当は年間6円/株を予定
(中間配当3円/株、期末配当3円/株)

経常利益は、対前期比で80億円増の200億円を見込んでいます。

数量については、タイ工場が立ち上がった影響で缶材が増加する見込みです。自動車関係のパネル材、熱交換器材の数量も引き続き増加するものと見込んでいます。

これらの結果、経常利益は66.5%増、80億円増の見通しです。増加分の内訳は、棚卸評価関係が好転するほか、統合効果を含むコストダウンがさらに進む見込みです。また、タイ工場の稼働率が上がりコストの減少につながると想定しています。

配当は、年間で1株当たり6円/株を予定しています。

2016年度 通期業績見通し

UACJ

(単位：億円)

	2015年度 (A)	2016年度見通し (B)	増 減 (B) - (A)
連結売上高	5,757	6,000	243
連結営業利益	152	245	93
棚卸影響前 連結経常利益	203	251	48
連結経常利益	120	200	80
連結当期純利益	51	90	39
Adjusted EBITDA	523	557	34

諸元 (2016年度) : アルミ地金日経平均 227円/kg, 為替 113円/US\$, 原油 43US\$/B

※ 連結当期純利益 : 親会社株主に帰属する当期純利益
 ※ Adjusted EBITDA : EBITDA - 棚卸評価関係

© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

13

通期業績見通しの各指標です。

まず売上高は、対前期比で243億円増の6千億円を見込んでいます。アルミ圧延の数量が全般的に増え、2016年に買収した米国のUACJ Automotive Whitehall Industries, Inc.社（以下、ホワイトホール）の売上が寄与するものと考えています。

連結営業利益は245億円、棚卸影響前の連結経常利益が48億円増の251億円、連結経常利益は80億円増の200億円、連結当期純利益は39億円増の90億円を見込んでいます。

Adjusted EBITDAも増加する見通しであり、34億円増の557億円を見込んでいます。

セグメント別 売上高・営業利益

UACJ

(単位：億円)

	2015年度 (A)		2016年度見通し (B)		増減 (B) - (A)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
アルミ圧延品	4,609	181	4,611	248	2	66
伸銅品	469	3	528	15	60	12
加工品・関連事業	1,671	37	1,863	50	192	12
(調整額)	△991	△70	△1,002	△68	△11	2
合計	5,757	152	6,000	245	243	93

© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

14

3つのセグメント別売上高・営業利益について説明します。

アルミ圧延については増収増益を見込んでいます。後ほど説明します。

伸銅品は、2015年下期にエアコンの在庫がふくらんだ影響で売上が落ちましたが、在庫等の調査結果から、回復してくると見えています。もちろん気候の影響もありますが、伸銅品は増収増益の見通しです。

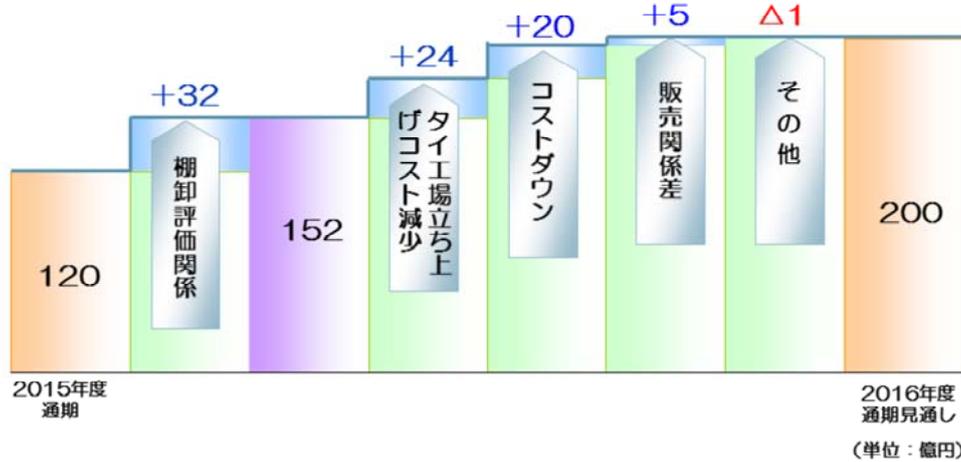
加工品関連は、先ほど申し上げた米国ホワイトホール社の買収効果により売上・利益が大きく増える見込みです。

連結経常損益分析 (2015年度 → 2016年度見通し)



120 億円 (2015年度) → 200 億円 (2016年度見通し)

統合効果差 +20 億円を含む
(2015年度 80億円 → 2016年度見通し 100億円)



120億円から200億円への経常損益分析です。

まず、棚卸評価関係の好転で32億円プラス。タイヤ工場については、2016年度後半に月産1万トンを目指しており稼働率が上がってくることから、立ち上げコストが減少しプラス24億円。統合効果も含めたコストダウンでプラス20億円。自動車関係を中心とした販売関係の好調によってプラス5億円。

これらを主な要因として、200億円を見込んでいます。

アルミ板 品種別売上数量

UACJ

(単位千トン)

品 種	2015年度 (A)	2016年度 (B)	増 減 (B) - (A)
缶 材	614	654	40
箔 地	46	49	3
I T	21	31	10
自 動 車	80	105	24
厚 板	62	62	0
その他一般材	146	164	18
合 計	970	1,064	94
	国内市場向け 510 海外市場向け 460	国内市場向け 535 海外市場向け 530	25 70

© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

16

品種別売上数量について説明します。

全体としては9万4千トン増の106万4千トンを見込んでおり、統合後、初めて100万トンを超えることとなります。

缶材はタイ工場の一貫生産の増加が寄与し、4万トン増の見込みです。箔地については、一般箔等は厳しいものの、電池関係やコンデンサが少し増えてくると見込んでいます。IT関係も、昨年度後半は落ち込みましたが、新型モデルを含めて増える予想であり、1万トン増の3万1千トン。自動車関係は引き続きパネル材と熱交換器材ともに好調と見ており、2万4千トン増の10万5千トン。初めて10万トンを超える見込みです。

厚板は増減0となっています。LNG関連が、国内は増加する一方で輸出が減ると見ています。

その他一般材については、国内建材の回復、海外向けのエアコンのフィン材の受注が旺盛なことから、1万8千トン増加を見込んでいます。

なお、このうち国内向けが53万5千トン、海外市場向けが53万トンと、国内と海外がほぼ半々になるものと考えています。

設備投資・減価償却費見通し



(単位:億円)

		2015年度	2016年度見通し
設備投資	一般投資	124	115
	戦略投資	181	245
	合計	305	360
減価償却費		222	227
戦略投融资		55	260

© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

17

最後に、設備投資・減価償却の見通しです。

まず設備投資については、2015年度の一般投資が124億円、戦略投資が181億円、あわせて305億円でした。2016年度は、一般投資115億円、戦略投資245億円、合計360億円と若干増加しています。

一般投資については、基本的に既存設備の維持更新に対するものであり、コントロールしていきます。

戦略投資については、2015年度はほぼタイの圧延工場でした。2016年度は、タイの圧延工場の残りが一部含まれ、北米のTri-Arrows Aluminum Inc.に対する投資が発生することから若干増加します。

減価償却については、220億円程度で維持していきたいと考えています。

戦略投融资については、2015年度が55億円、2016年度が260億円と増加しています。

2015年度は、Constellium社と共同事業として進めている自動車パネル用アルミニウム材の米国工場に対する融資がメインです。

2016年度は主に米国ホワイトホール社の買収や関連会社に対する株式の追加取得等です。

3. トピックス

続いて、トピックスについてお話しします。

UACJタイランドラヨン製造所を
アジア最高レベルの生産拠点へ

利益創出に向けた生産体制の確立を目指す

月1万トンの生産体制の早期確立
稼働率、生産の質、現地工場従業員の
習熟度向上

2017年度までに年間20万tの
供給体制確立、利益創出へ

UATH生産量推移



グローバル展開に関して4点お話しします。

1つ目がアジア、タイの板圧延事業、次に北米の自動車関係、パネル材事業
3点目が北中米の自動車構造材・部品事業、最後に熱交換器材事業に関する
展開について説明します。

まず、タイ・ラヨンの板圧延事業ですが、2015年8月から鑄造を含めた
一貫生産を開始し、ほぼ順調に立ち上がっていると認識しています。

足元としては月1万トンの生産体制を早期に構築することが必要であり、
2016年後半の達成を目指して精力的に取り組んでいます。

稼働率・生産性向上のためには、まずは現地従業員の習熟度アップが重要
であることから、集中的に取り組んでいます。

2017年度までには年間20万トン、これは投資した設備の最大生産能力値
に近い数字ですが、そこまで持っていきたいと考えています。

マーケット環境としてアジアは難しい部分もありますが、当社の製品は低
コスト・高品質という評価を受けており需要は非常に旺盛です。今後は、
年間30万トンに向けた投資も検討していきたいと思っています。

当社とConstellium社の技術の融合により高品質な製品を提供
合弁新会社名：Constellium-UACJ ABS LLC（予定）

米国での自動車パネル用アルミニウム需要増加に対し、
確実な対応

2016年6月より稼働を開始予定

第2期投資も検討中



試作品完成



稼働試験



建屋全景

次は北米自動車用パネル事業についてお話しします。

Constellium社と共同で自動車パネル用アルミニウム材の仕上げ工場を建設しています。

視察に行ってきたところ、立派な工場が完成していました。

現在、試運転を繰り返しており、トラブルは全て解消して基本的には問題ないという状態を確認しています。

同時に、自動車会社の認定が必要なため、試運転をしながら試作材もつくり、認定サンプルを提出する段階に入っています。2016年6月の正式稼働を予定しています。

北米のマーケットは2020年度には150万トンともいわれており、今後も拡大していく可能性が高いことから、第2期投資も検討していきます。

北中米での自動車用アルミニウム構造材・部品における地位確立
新会社名：UACJ Automotive Whitehall Industries, Inc.

CAFE規制に伴う自動車軽量化により、北米での需要は拡大

北米における自動車用アルミニウム構造材・部品などのリーディングカンパニー Whitehall Industriesを買収

北中米における当社グループ会社とのシナジーにより、自動車用アルミニウム材事業をさらに強化、拡大



ボデーフレーム構造材



サンルーフガイド



アクチュエータボディ
(シリンダ)

メキシコも含めた北中米での自動車用構造材、部品事業についてです。写真は、主な商品例です。赤い部分が自動車構造材です。サンルーフやドア、アクチュエータボディなどもあります。買収したホワイトホール社は、押出・加工に関するさまざまな技術をもっています。

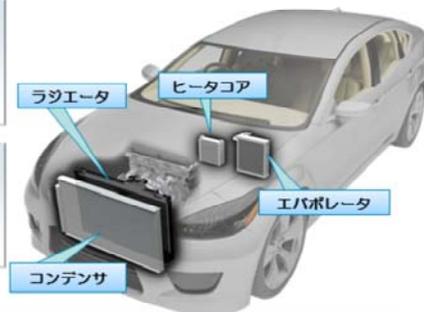
自動車用構造材のマーケットは年平均25%くらい成長するものと認識しています。ホワイトホール社単体でも成長を期待していますが、当社グループの押出会社や北中米の金属加工会社とのシナジー効果も大きく期待しています。

これらを活用し、自動車用材の事業の強化・拡大を進めていきます。

UACJブランドでグローバル展開

需要の高まる自動車用熱交換材を
戦略商品として位置づけ、
グローバルな供給体制を構築

世界最高レベルの研究開発体制と
板材・押出材の総合供給メーカーと
して、グローバルで拡販を目指す



【UACJブランドでのネットワーク】

	日本	中国	東南アジア	欧州	米州
販売	UACJ	優艾希杰東陽光 ^{*1}	UACJ	UEHEM ^{*2}	UACJ
製造		乳源東陽光 優艾希杰精箔		ELVAL	

注) ^{*1}優艾希杰東陽光：優艾希杰東陽光（上海）鋁材銷售有限公司
^{*2}UEHEM UACJ ELVAL HEAT EXCHANGER MATERIALS GmbH

自動車の熱交換器材に関するグローバル展開について触れます。

製品は、コンデンサ、ラジエータ、ヒーターコア、エバポレータなど、さまざまな部分に使われています。高機能な材料を要求される部分であり、かつ今後自動車マーケットも含めて需要が増えてくることから、当社も戦略商品として位置づけ、グローバル展開や供給体制を検討してきました。

このたび、欧州ではELVAL Hellenic Aluminium Industry S.A.と、中国では広東東陽光科技控股股份有と連携し、当社が51%を出資する新販売会社をそれぞれ設立しました。日本・中国・東南アジア（タイ）、欧州・米州と、世界各地に熱交換器材のネットワークを構築することができました。

このネットワークをベースに、世界最高レベルに近い研究開発技術や、板・押出が両方可能であるという当社の特長を活かし、グローバルに拡販していく計画です。

生産品種移管は、概ね予定通り進捗

2015年度 約6割移管完了

2016年度 完了目標に対し、概ね計画通り進捗

印刷版用板材、フィン材、キャップ材は移管完了

【各製造拠点の位置づけ】

<福井> 缶材とLNG船用厚板主体の基幹工場

<名古屋> 自動車材、印刷版用板材、フィン材の基幹工場

<深谷> 厚板主体の基幹工場

<日光> 精密特殊材主体の仕上専門工場

最後は、国内の最適生産体制についてです。

当社は基本的にグローバル展開を強化していく方針ですが、現状、国内の利益がベースになっていることから、この施策は極めて重要だと考えています。

品種移管はお客様との関係もあるため難しい作業ではありますが、各工場とも着実に進めています。2015年度に約6割が移管完了し、2016年度にほぼ全部が完了と、概ね予定通りに進捗しています。

品種移管それ自体が目的ではなく、福井・名古屋を中心に、各工場が競争力を持つことが主たる目的です。まずは移管を進めますが、同時にさまざまな施策も展開し、QCD[Quality（品質）、Cost（費用）、Delivery（引渡）]において競争力を高めていくことで、国内の生産体制を強化していきたいと考えています。

中期経営計画の進捗状況

UACJ

経常利益 (億円)



Adjusted EBITDA (億円)



ROE (%)



D/Eレシオ (倍)



© 2018 UACJ Corporation. All rights reserved.

24

中期経営計画の進捗状況です。

経常利益、ROE、Adjusted EBITDA、D/Eレシオを提示しています。

まずは数値目標に対して、必達に向けた施策を進めている最中です。

なかでも、Adjusted EBITDAは、統合以降、着実に増加をしており、2015年度が523億円、2016年度は30億円ほど増えて557億円です。中期経営計画の目標は670億円であり110億円ほどギャップがありますが、タイ圧延工場の黒字化を実現し、あとは統合効果が30億円程度あるため、これらによって目標を視野に入れていきたいと考えています。

ただし、D/Eレシオについては、ホワイトホール社を含め、新中期経営計画の策定時に想定していなかった先行投融資が入ったことから、少々遅れ気味です。

将来情報についての注意事項

この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは、今後さまざまな要因によりこれらの業績見通しとは大きく異なる場合があり、確約や保証を与えるものではないことをご承知おきください。また、本資料は投資勧誘の目的のための資料ではありません。

著作権等について

この資料のいかなる部分についてもその著作権その他一切の権利は、株式会社UACJに帰属しており、あらゆる方法を問わず、無断で複製または転用することを禁止します。

本資料ならびにIR関係の問い合わせにつきましては、下記までお願いいたします。

広報IR部 TEL：03-6202-2654 FAX：03-6202-2021
URL：<http://www.uacj.co.jp>
(東証1部 コード番号：5741)